

論壇

グローバル経済が進展

モロッコのマラケシュという街で行われている国際会議に参加している。マラケシュについて聞いたことがない人も多いだろうが、国際経済問題に関わりのある私のような者にとっては大変なじみ深い名称の街である。

1994年、この地マラケシュで行われた会議において、翌年の95年に設立されるWTO（世界貿易機関）について規定したマラケシュ協定が作成された。それまでGATT（貿易と関税に関する一般協定）と呼ばれていた多國間の通商制度が、WTOという形で強化改組されることになった。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

WTO発祥の地マラケシュ

歴史的にみれば、WTOの成立によって、グローバルな貿易や投資がさらに進展することになる。貿易や投資の拡大は、世界の経済発展に大きく寄与してきた。2001年には中国がこのWTOに参加し、グローバル経済に組み込まれることになる。WTOに参加する以前の中国のGDPは1兆3千億

ドル程度であったが、現在はその10倍を超える規模になっている。この間に各自GDPがほとんど増えていない日本とは対照的である。 WTO発祥の地であるそのマラケシュの街でいま聞かれている国際会議では、そのWTOの弱体化についての議論が活発に行われて

能は停止すると懸念されている。トランプ政権がこのように激しい行動をとる背景には、WTOの下でグローバル化が進展し、それによって不満をもった層が増え、グローバル化への反動が政治的に起きていくことがある。ポピュリズムということがあるが、トランプ大統領はそうした不満の声に乗って、大統領選に勝った。

中国の成長と米の反発

WTOの成立と、中国の加盟はセットにして議論されることが多い。中国にとってはWTOに入った時期から自覚ましい経済成長を続けることができたが、10年そこそこで10倍近くに膨れ上がった経済規模が、世界にいろいろな形で影響を及ぼすことになる。その一つが急速な中国の輸出の増加とそ

れに対する米国の反発である。これが今日の米中摩擦の原因となっている。

WTOの成立の地であるマラケシュで、WTOの将来について議論するということは意義深いことだ。ただ残念ながら、なかなか明るい未来図を描くことができない。世界経済はますます不確実性を増しており、それが海外投資などにマイナスの影響を及ぼしつつあるというのが現状である。

日本で普通の生活をしていると、WTOについての議論に触れることは少ないだろう。マラケシュという街も遠い存在だ。ただ、WTOの下で進んできたグローバル化の中でWTOが機能不全に陥りつつあることが、これからの私たちの生活にも大きな影響を及ぼしかねないのだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。